

中学生の地域防災訓練参加体験と 意識調査に基づいた「向島地域防災マップ」の作成



一寺言問を防災のまちにする会
(通称 一言会)

なぜ中学生の地域防災訓練なのか？

◎私達のまちの特徴とまちづくり(発足1985年)

- ・木造建築の密集した、路地の多いまち(一)
=被災時に危険なまち
→「防災生活圏モデル事業」
- ・路地が取りもつ豊かな隣人関係(+)
=住民参加のまちづくり

被災時には豊かな隣人関係が、
最良の救助手段

雨水利用(被災時飲料水)
ストリートファニチャー「路地尊」

◎物づくり＋活性化

- ・活性化イベントの共催
(2000年頃)
- ・空き家調査

◎被災時への準備

- ・震災復興模擬訓練(被災した時に、どのようなことが必要となるか、話し合い、洗い出してみよう)
(2003年、04年、07年)

→担い手がない。→中学生がいた。→中学校へお願いしよう
(標準校区の3中学校、2005年)

中学生の課題

- ・地域で中学生の顔が見えない
→普段から付き合いをしたい(地域の片思い)
- ・自由選択制
→全区的に展開する必要→一言会では荷が重い
- ・学業以外に保護者が無頓着
→地域のイベントは進学に役立たない→遊んでいる時間があるなら勉強？
- ・恥ずかしい
→格好良くしなくては

学校教育との連携が必要
・地域に根ざす教育
・総合的な学習

実施まで

平成19年7月

- 12月18日 一言会理事会
(実施体制と内容の吟味)
- 1月 墨田区防災課との協議
- 1月29日 一言会理事会
(カード素案、呼びかけ素案の検討)
- 4月 教育委員会、中学校向け提案文書や
地域町会向け提案文書の検討
- 5月 連合町会等へのコンタクト
- 6月 6日 チャレンジプラン承認決定
- 6月 教育委員会、指導室とのコンタクト
- 6月28日 一言会理事会
(教育委員会との連携について)
- 7月 指導室との相談
- 7月16日 一言会理事会
(町会・校長への呼びかけ検討)
- 7月17日 墨田区中学校校長会
(協力の要請が了解される)
- 7月 墨田区防災課からの情報提供
- 8月13日 一言会理事会
(他町会への呼びかけ、アンケート検討)
- 8月～ 実施町会等との具体的な協議
- 9月 3日 一言会理事会
(アンケート検討)
- 9月28日 一寺小学校防災連絡会
(参加町会への呼びかけ・質疑)

地域防災訓練に中学生の参加を促すための提案

町長各位様

一寺言問を防災のまちにする会（通称 一言会）

会長 青木 隆雄（東向島1丁目中町会会长）
副会長 大内 嘉一（東向1南町会会长）
副会長 守屋 明（東向島宮元町会会长）
副会長 中沢 進（堤通1丁目町会会长）
副会長 高田 弘（向島5丁目西町会会长）
副会長 佐原 滋元（わいわい会代表、事務局長）

私ども、一寺言問を防災のまちにする会は、昭和60年より防災まちづくりに取り組み、近年は「震災復興模擬訓練」を三度実施して参りました（資料0）。その訓練の中で、被災時における中学生の活躍に多くの住民が期待していることが分かりました。そこで、別紙（資料2）のような趣旨と内容で、過日、区立中学校に、中学生の地域防災訓練への参加促進についてのお願いをいたしました。

お願いの要旨は、各町会等でおこなう防災訓練に参加し参加証明書を持参した中学生に対し一定の評価をしていただきたいということです。

現在、他区などでは、中学校を単位として、周辺地域との防災訓練等は実施されることもありますが、一番その体験授業の成果が期待されるのは、児童の住んでいる地域町内での体験です。そこでは、地域の大人とともに活躍する中学生の役割が期待されています。

また、このような事業を契機に、とかく姿が見えにくくなった地域での中学生を地域の大人が認識することにもなり、地域社会の一員としての自覚をも涵養するのではないかと思われます。

つきましては、各町会のご理解をいただき、さらに大きく区内全域の中学生へと広げていきたいと考えております。

次世代の中学生と地域社会を繋ぐ事業として、皆様のご理解をいただきたく、ご提案申し上げます。

なお、この事業は「防災教育チャレンジプラン」（資料1）の支援をいただき実施されます。

連携した地域諸団体

行政諸機関

- ・墨田区教育委員会
(指導室)
- ・墨田区中学校校長会
- ・墨田区防災課
- ・他の団体
- ・墨田区中学校連合PTA
- ・第一寺島小学校同窓会

これらの町会を
標準校区とする
中学校(12校の内)

- ・墨田中学校
- ・本所中学校
- ・寺島中学校
- ・向島中学校

〈第一寺島小学校
防災連絡会〉

向島一丁目町会、向島二丁目睦町会、
向島三丁目町会、向島三丁目町会、
向島四丁目南町会、向島四丁目北町会、
向島五丁目西町会、向島五丁目東町会、
小梅一丁目町会、小梅二丁目町会、
小梅三丁目町会、押上一丁目町会、
押上一丁目仲町会、押上二丁目町会、
中之郷町会

〈一言会〉

わいわい会

東向島一丁目中町会、
東向一南町会、
東向島宮元町会、
堤通一丁目町会、

曳舟中町会、
東向島二丁目睦町会、
東向島二丁目町会、

《本所北部連合町会》

本所消防署管内

向島消防署管内

東向島町会、

《寺島地区町会連合》

地域連合体《》《》

9月9日 宮元町会防災訓練
会場 向島百花园児童遊園
(参加者約200名、内中学生0名)
ただし、保護者より学校行事で参加不能の
申し出2名



10月21日 東向島町会防災訓練
会場 第二寺島小学校校庭
(参加者約230名、内中学生0名)



10月21日 曳舟中町会防災訓練
会場 ふじの木公園
(参加者約150名、内中学生0名)



10月21日

東向一南町会・東向島中町会
・東向島睦町会合同防災訓練
会場 第一寺島小学校校庭
(参加者約200名、内中学生1名)



10月28日(日) 堤通一丁目町会防災訓練

会場 さくら児童遊園 (台風のため、グランドコンディションが悪く中止)

11月11日(日) 東向島二丁目町会防災訓練

会場 ふじ公園等

(参加者約100人、内中学生3人)



11月25日(日) 本所北部連合町会合同防災訓練
会場 隅田公園自由広場
(参加者約650人、内中学生12名)



(連合町会:向島一丁目町会、向島二丁目睦町会、
向島三丁目町会、向島三丁目町会、
向島四丁目南町会、向島四丁目北町会、
向島五丁目西町会、向島五丁目東町会、
小梅一丁目町会、小梅二丁目町会、
小梅三丁目町会、押上一丁目町会、
押上一丁目仲町会、押上二丁目町会、中之郷町会)



今回のチャレンジプランによる「地域防災訓練参加証明書」取得者 合計 16人

◎救急救命講習会への招待

- ・近年、中学3年生対象の救急救命講習会を、中学校単位で開催する学校が出てきた。
(春の消防署との事前打ち合わせではこの話をうかがうことができなかつた。)
 - ・寺島中学校 20年度から3年生全員を対象として検討中(向島消防署管内)
 - ・向島中学校 19年度から3年生全員を対象として3月に実施予定(向島消防署管内)
 - ・墨田中学校 19年度から3年生全員を対象として3月に実施予定(本所消防署管内)
- ・以上の状況から、向島中学校と墨田中学校については学校にお任せすることにし、寺島中学校についてはその検討結果を受けて対応を決めることにした。
- ・上記の事情説明とともに「救急法の基礎知識」のブックレットを贈呈送付することとした。

◎地域防災意識調査

- ・各防災訓練での回収 10月21日1件、11月11日3件
(11月25日は調査地域が異なるため実施していない)
- ・回収が少なかったため、第一寺島小学校同窓会のご協力で中学生の幹事(約25人)への郵送調査を実施した。回収2件(内1件は参加証取得者のため割愛) 回収合計4件
- ・定量的な分析は困難、マップ作成は断念した。

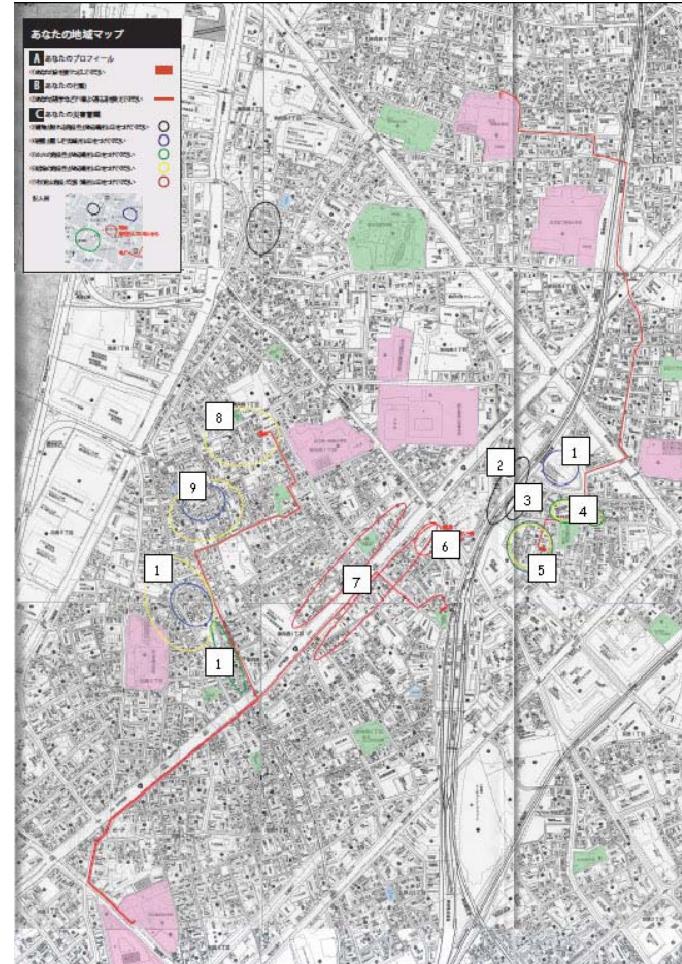
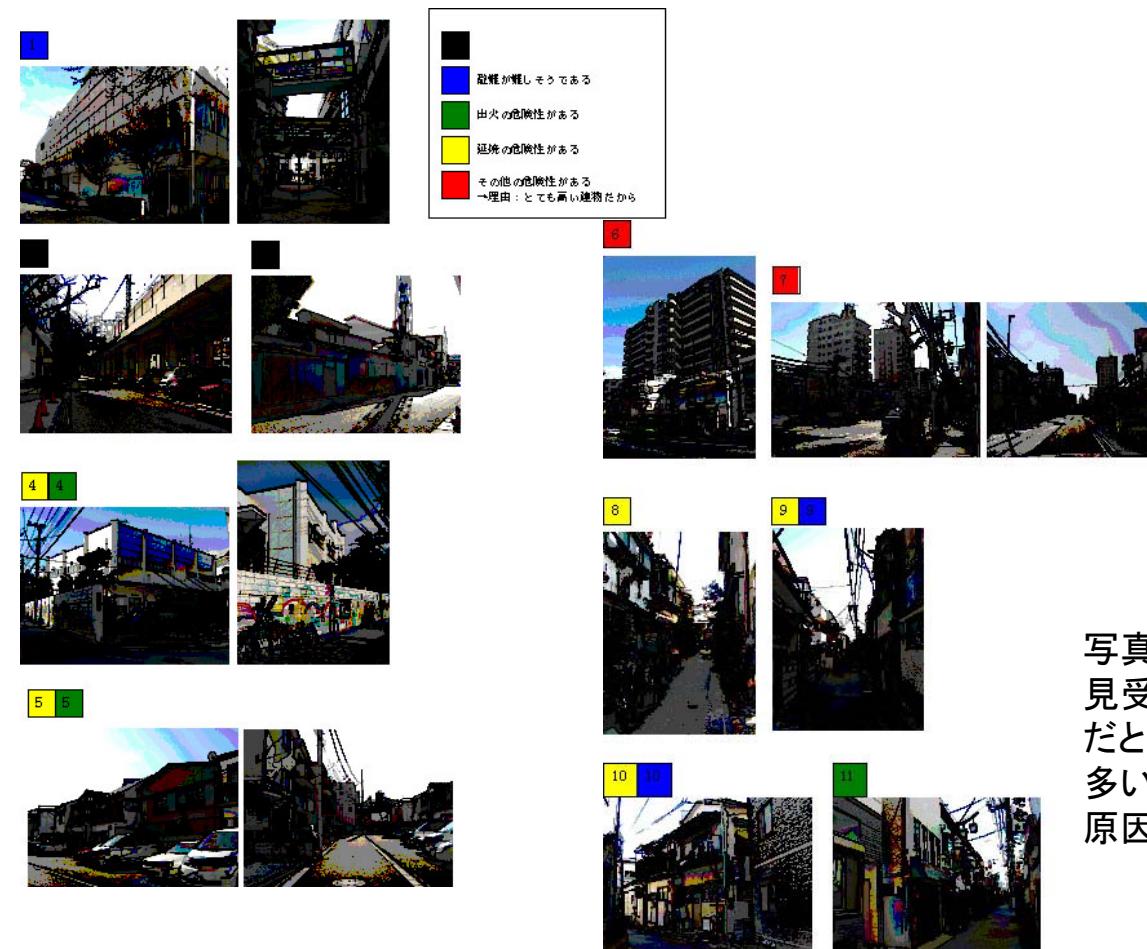
図1 中学生のよく行く場所

アンケート考察

- ・中学生は、地域外へ遊びに出かけて、地域にいらないのではないかという懸念があつたが、結果をみると、部活動(中学校)中心の生活をしており、中学生は自宅と学校の間の地域にいる、と考えてよいことがわかつた。

	A	B	C	D	E
性別	女	男	女	男	女
中学校名と学年	寺島中一年	向島中1年	寺島中1年	墨田中1年	向島中2年
よく行く場所		部活動、ふじ公園、ユートリア、東向島児童公園	部活動	部活動	LaLaテラス(南千住)
避難場所	第一寺島小学校	ふじ公園	三寺小	曳舟児童公園	第一寺島小

◎アンケートによる中学生が危険だと考える場所
中学生が危険だと考えるのはどのような場所であるか、
地図上に印を付けてもらった。



写真にあるような場所は、地域のあらゆる場所で見受けられる。しかし、あえて地図上の場所を危険だと指摘している。自宅周辺、通学路周辺に印が多いことからも、回答者がよく通る場所であることが原因であると思われる。

反省

「地域防災訓練参加証明書」に対する反省

- ◎地域と中学校の防災をテーマにした情報交換の必要性
- ◎広範な地域防災訓練主催者(町会自治会等)への理解の浸透
- ◎在住地域の防災訓練に参加が出来ない中学生に対しての配慮

地域防災意識調査アンケートに対する反省

- ◎防災訓練会場では、落ち着いて調査票に記入できる環境が作りにくい
- ◎郵送調査では、冬休み直前のため友だちとも話し合える機会が少なかった

成果と今後の取り組み

- ◎「地域防災訓練参加証明書」を受け取った関係中学校では、朝礼や学校便りなどで参加生徒の氏名を称えるなど、積極的に学校教育の中で位置づけていただいた。
- ◎参加した生徒の整理、各実施団体、各中学校への成果報告など、この運動が広がっていくと、我々の団体の事務だけでは限界があることが見えてきた。(区立中学校12校、生徒数約3,600人、町会数150団体以上)
今後は、各主催者へのノウハウの提供、カードの発行等では行政からの支援も考えていかなければならぬと思う。
- ◎地域防災意識調査については、今後の地域における諸行事や日常活動の中で展開を考えたい。
- ◎参加した中学生は、小学校時代にも地域町会の防災訓練に参加した生徒が多かったことから、小学生対象の「地域防災訓練参加証明書」を作りたいと思う。
- ◎今回のプランは、私達の地域で被災時に中学生の果たす役割が非常に大きなものであるということから、中学生と地域の繋がりを、地域町会が実施する防災訓練への参加促進をとおして目指そうと立案された。

今回の参加者は決して多くはないが、実施にご協力いただいた各町会地域は、来年こそはより多くの中学生を迎える工夫をしたいと張り切っている。様子を見ていた町会も来年実施を計画した。また、中学校も地域との連携という点から、また災害に弱いと言われる墨田の学校として、多大なご協力をいただけたものと思う。
ささやかな提案ではあったが、私たちのまちに対して大きな一歩をあゆみ出せたと考えている。